

擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和7年 1月24日(金) Vol.38

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も自分も大切に」「感動・感謝を大切に」
「団結・協力を大切に」「命を大切に」



【ホームページへ】

3年生の皆さんへ

この1週間で、県内の私立高校の入試はほぼ終わりました。十分に準備して、当日は、とにかく平常心で……と多くの人が考えたことでしょうか、「きちんと行動しなくちゃ」「いい得点を取らなくちゃ」などと、誰もが知らず知らずのうちに、自分自身にプレッシャーをかけてしまうものです。

試験会場の、座り慣れない椅子に座ったときの緊張感や不安感は、言葉にならないほどのものだったのではないのでしょうか。そのような状況を乗り越えて、入試に取り組んだ皆さん。お疲れ様でした。

結果発表の日は、私たち教職員も落ち着いた気持ちでした。きっと、お子さんを支え、見守ってきた保護者の皆さんの胸中は、計り知れないものだったことでしょう。



【体育のサッカー。仲間とともに走って競り合います】



【ピアノを囲んでパート練習。卒業式に向けた練習も、少しずつ進んでいます】



【作文のコツを学び、まずは書いてみます】

あと3週間あまりで、公立高校の入試。現在の教室には、進学先が決定した生徒と、結果を待つ生徒、入試に臨む生徒とがいます。毎日一緒に生活してきた仲間同士が、別々の結果を得ることもあります。

これまでの生活や活動の中で、お互いを尊重しながら協力してきた皆さんなので、気配り、思いやり、想像力が、これまで以上に大切だということは、もはや言うまでもないことでしょう。

「結果が出た後のこと」について、私から2つ、メッセージを贈ります。残りわずかの日々に向けて、自分の言動と、仲間の気持ちなどを考えたり思い浮かべたりしながら、ぜひ読んでください。

進路が決まった人へ

ここまで、あなた自身の努力があったことは間違いありません。そして、それ以上に、周囲の人が、あなたを支えて頑張っていることを、今一度、思い起こしてください。何よりもまず、家族の方々に、自分なりの表現で、感謝の気持ちを表してほしい、と心から願います。

偉業を成し遂げたアスリートや研究者のインタビューを見聞きすると、必ずと言っていいほど、「支えてくれた皆さんのおかげです」と、周囲の人への感謝の気持ちを述べています。

あなたが悩み、苦しんでいるとき、すぐそばで、同じような気持ちを抱えながら、じっと見守ってくれた人が、必ずいます。その存在を、どうか大切にしてください。

また、周りには、次のチャンスを狙って、歯を食いしばって頑張っている人がいます。その人たちの気持ちも大切にしていきましょう。

次の入試を控えている人へ

不安を抱きつつも、頑張るあなたに、私たちは敬意を表します。

あなたの人生は、未来に向かってずっと続いています。前進し続ければ、次のチャンスに出会えるときが、必ず来ます。迷わず、惑わされず、元気に進んでほしいと願っています。

人は、歩き続ければ、いつか転ぶことがあります。痛くても苦しくても、歯を食いしばって歩き続けていくと、痛めた部分がどんどん丈夫になって、痛みやケガに強くなります。転びにくく、ケガをしにくい体で、自信をもって歩いていけば、あなたはきっと、チャンスをつかむことができるでしょう。

あなたの未来は、あなたが顔を上げている限り、可能性が広がり、選択肢が増えていくものなのです。

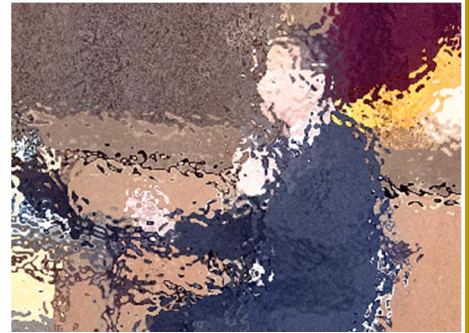
あなたが次の一步を踏み出すことを、私たちは心から期待し、応援しています。

育ち続ける子どもたち

17日(金)、新入生保護者説明会が行われました。令和7年度の新1年生は、74名(1月現在)で、2クラスの予定です。

この説明会では、冒頭に「思春期子育て講座」が行われます。今回も、講師の先生をお招きして、「思春期の子どもとの関わり方」について、様々な事例を交えて、講話を伺いました。先生は、「千葉県子どもと親のサポートセンター」にて、不登校など様々な課題を抱える子どもや、子どもとの関わりに悩む保護者への支援について研究、実践をしています。

講話は、おおよそ次のような内容でした。



【昨年度に引き続き、今年度も講師を引き受けていただきました】



【会場の片付けは、バレエ部。サッと集まってサッと片付けてサッと部活開始】

- ①人は成長するにつれて様々なストレスを感じていくが、それを言語化し、自らSOSを出せるような子どもになってほしい。
- ②そのためには、子どもの様々な感情の表出を、我慢させるのではなく、大人が正しく受け止めてあげることが大切。単に同情するだけでなく、共感的理解ができるとうい。



【2年生は陶芸に夢中。自分の世界に入って、黙々と粘土を削り、かたどっています】

- ③「子どもの感情を受け止める」とは、たとえば、子どもの感情を、大人が、正しく言い当ててあげること。「辛かったね」「悔しかったね」など。大人は、このようなネガティブな感情を敬遠しがちで、子どもにも我慢させようとしてしまう。子どもの様々な感情の表出を、我慢させるのではなく、正しく受け止めてあげることが大切。



【職人のような集中力でミシンがけ。3年間使えるファイルカバーの完成を目指して】

- ④様々な感情を受け止めてもらえる環境ならば、子どもはSOSを出すことができるようになるだろう。
- ⑤思春期の子どもと向き合うために、親は「理想の子育て」をうまく諦められるとうい。また、子どもの言動に、過敏に反応しすぎず、うまく距離をとって関われるとうい。

いい大人である私も、かつては大人の言うことを煙たがり、親というより友達という方が楽しく感じ、ルールや約束事を煩わしく思っていた時期がありました。保護者の皆さんの多くも、そのような道を歩いてきたことと思います。誰もが通る道なのに、いざ、自分の子どもがその時期にさしかかると、大人は、不安になったり戸惑ったりしてしまう、というのが、世の常なのかもしれません。

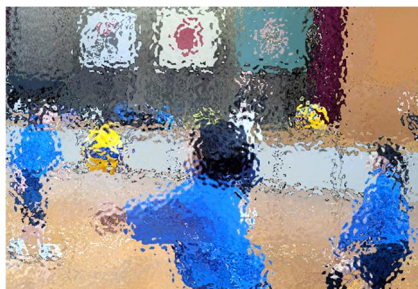
私たち大人は、子どもの成長を見守り、気にかけてつ、距離感を調整していけるとよいのでしょうか。それができるようになることが、「子どもを育てることは、自らを育てることになる」という意味なのかもしれません。

本校の生徒たちは、まだ子どもらしい無邪気さや素直さを存分に感じさせながらも、大人の階段を上っていると感じられるような、頼もしさも見せてくれます。これからも、保護者の皆さんと協力して、生徒の力を信じて、しっかり見守っていきたいものです。

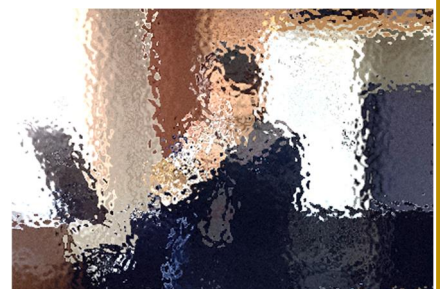
先生は講演の結びに「保護者は抱え込まずに、外部機関に相談してほしい」と話されました。

感謝の心を忘れずに

仲間とともに、目標に向かって励む生徒たち。活動に専念できるのは、時に励まし、時に愚痴を聞き、見守ってくれる家族が支えてくれているからに、ほかありません。そして、実は生徒もそれをよく分かっています。その感謝を胸に、それぞれの舞台上で頑張っているのです。



【25日、バレエ部1年生大会。明るく元気なプレーを期待します】



【26日、ソロコンクール。トランペットの音色が高らかに優しく響きます】